

ディプロマ・ポリシー (DP)

人材養成の目的および教育研究上の目的のもと、次に掲げる資質・能力を有していると認められる者に学位を授与する。

【知識・理解】

DP1：高度化医療や医療現場における様々な課題に迅速かつ適切に対応できる高度な臨床的専門知識と優れた研究能力を習得する。

【技能】

DP2：基礎科学および医療に対する論理的・多面的な思考力・問題解決能力を習得する。

【態度・志向性】

DP3：薬学を通して、国民の健康維持に積極的に貢献する姿勢を有する。

*3つのポリシー DPと

特に強く関連：◎ 強く関連：○

科目	部門	授業科目名	単位数	配当年次	期別	知識・理解	技能	態度・志向性
						DP1	DP2	DP3
特修科目		最新薬剤学特論	2	1	前期	◎		◎
		医薬品管理・情報学特論	2	1	前期	◎		◎
		臨床開発薬学特論	2	1	前期	◎		◎
		先端薬理学特論	2	1	前期	◎		◎
		先端生命科学特論	2	1	後期	◎		◎
		創薬科学特論	2	1	後期	◎		◎
		レギュラトリーサイエンス特論	2	1	後期	◎		◎
基礎実習		実務薬剤学実習	2	1	通年	◎	◎	
		薬剤学実習	2	1	通年	◎	◎	
		医薬品情報学実習	2	1	通年	◎	◎	
		薬理学実習	2	1	通年	◎	◎	
		バイオ実習	2	1	通年	◎	◎	
		生化学実習	2	1	通年	◎	◎	
		医薬品合成実習	2	1	通年	◎	◎	
		医薬品分析実習	2	1	通年	◎	◎	
専修科目	臨床副作用学	臨床副作用学演習	6	2~4	3年通年	◎	◎	◎
		臨床副作用学特別実験	12	2~4	3年通年	○	◎	◎
	臨床薬剤学 (病院薬学)	臨床薬剤学演習 (病院薬学演習)	6	2~4	3年通年	◎	◎	◎
		臨床薬剤学特別実験 (病院薬学特別実験)	12	2~4	3年通年	○	◎	◎
	臨床薬物治療学	臨床薬物治療学演習	6	2~4	3年通年	◎	◎	◎
		臨床薬物治療学特別実験	12	2~4	3年通年	○	◎	◎
	医薬品情報学	医薬品情報学演習	6	2~4	3年通年	◎	◎	◎
		医薬品情報学特別実験	12	2~4	3年通年	○	◎	◎
	薬学疾患管理学	薬学疾患管理学演習	6	2~4	3年通年	◎	◎	◎
		薬学疾患管理学特別実験	12	2~4	3年通年	○	◎	◎
	製剤設計学	製剤設計学演習	6	2~4	3年通年	◎	◎	◎
		製剤設計学特別実験	12	2~4	3年通年	○	◎	◎
	臨床疾患薬理学	臨床疾患薬理学演習	6	2~4	3年通年	◎	◎	◎
		臨床疾患薬理学特別実験	12	2~4	3年通年	○	◎	◎
	病態機能解析学	病態機能解析学演習	6	2~4	3年通年	◎	◎	◎
		病態機能解析学特別実験	12	2~4	3年通年	○	◎	◎
	臨床生化学	臨床生化学演習	6	2~4	3年通年	◎	◎	◎
		臨床生化学特別実験	12	2~4	3年通年	○	◎	◎
	臨床医薬品解析学	臨床医薬品解析学演習	6	2~4	3年通年	◎	◎	◎
		臨床医薬品解析学特別実験	12	2~4	3年通年	○	◎	◎

科目	部門	授業科目名	単位数	配当年次	期別	知識・理解	技能	態度・志向性
						DP1	DP2	DP3
専修科目	臨床医薬品化学	臨床医薬品化学演習	6	2～4	3年通年	◎	◎	◎
		臨床医薬品化学特別実験	12	2～4	3年通年	○	◎	◎
専門力養成プログラム		医療薬剤師養成プラン	4	2～4	3年通年	◎	◎	◎
		薬学研究者養成プラン	4	2～4	3年通年	◎	◎	◎

「①修了要件」

博士課程（医学研究科・薬学研究科）の場合

※博士課程の修了の要件は、大学院に4年以上在学し、所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。（優れた業績を上げた者については、3年以上在学すれば足りるものとする。）

DPに示す資質・能力を有していると認められるものに学位が授与される。

「②必要修得単位」

必修科目：18単位（専修科目の演習6単位および特別実験12単位）

選択科目：12単位以上（専門力養成プログラムの4単位、基礎実習うちから2単位以上、特修科目うちから2単位以上）

※必修科目と選択科目の取得単位の合計が30単位以上

※一つの専修部門を選定し学生の専修科目とする。

※専修科目の演習担当者を指導教員とし、授業科目の選択、学位論文の作成、研究一般等について指導を受ける。

「③科目分類の説明」

基礎実習・・・自身が選んだ専修科目とは異なる領域の実験手法を学び、自身の研究領域に役立つ可能性のある幅広い実験技術を習得する。

特修科目・・・自身の研究領域に関連のある最新の話題について学習する。

専修科目演習・・・専修科目における担当教員より指導を受け、研究課題に関する実験実施計画の作成や実験結果の考察、実施計画の調整変更などを行う。

専修科目特別実験・・・専修科目における担当教員より指導を受け、研究課題に関する実験実施計画に基づいて実験を行う。

専門力養成プログラム・・・専門能力の向上につながることを期待できる学会発表や論文投稿などの研究活動をポイントとして単位を認定する。

「④年次ごとのスケジュール」

1年次：研究指導教員の提案や意見を参考として、研究の課題、方向性を協議する。また、課題に関連した先行研究の文献などを調査して、その新規性、独創性、および学術的価値などを吟味し、具体的な研究課題を決定する。研究課題に関する計画が作成され次第、実験を開始する。遅くとも前期期間内に最初の研究実施計画を作成して実験を開始する。また、初年度は特修科目および基礎実習の科目から、学位申請の要件となる単位分の科目を履修する。必要に応じて、どのような科目を履修するかを研究指導教員に相談する。年度末に研究結果・成果をまとめて報告書とし、研究指導教員に提出する。

2年次：前年度末に提出した報告書をもとに研究内容を協議し、必要であれば実施計画を調整・変更する。研究の進捗に問題がなければ、上記の指導体制の下で引き続き研究を遂行する。研究の進捗状況により研究指導教員の指導の下で、適切な時期に学会発表または原著論文の作成を行う。年度末に、当該年度の研究成果をまとめた報告書を研究指導教員に提出する。

3年次：前年度末に提出した報告書をもとに研究内容を協議し、上記の指導体制の下で引き続き研究を遂行する。必要に応じて研究計画を調整する。また、前期の適切な時期に、研究成果の中間発表会を学部内で開催して、所属研究室以外の教員から評価・指導を受ける。研究の進捗状況により研究指導教員の指導の下で、適切な時期に学会発表または原著論文の作成を行う。年度末に、当該年度の研究成果をまとめた報告書を研究指導教員に提出する。

4年次：前年度末に提出した報告書をもとに研究内容を協議し、上記の指導体制の下で引き続き研究を遂行する。研究の進捗状況により研究指導教員の指導の下で学会発表または原著論文の作成を行う。特に、前年度までに原著論文の発表がないものは研究指導教員に相談の上、直ちに原著論文の作成に着手する。研究指導教員の承認を得た上で、学位申請に必要な博士学位論文を作成し、12月初旬を期限として提出する。学位論文の作成に関しては、研究指導教員から内容および構成について指導を受ける。1月下旬～2月初旬に開催される博士学位論文公聴会にて、総括された研究成果を発表する。博士学位論文公聴会では、薬学研究科通常委員会の構成員により評価を受ける。